



ARATA FULL THROTTLE 最速理論

Fastest Theory

エリアで最速・最短に上達するために覚える技術



講師：新辰朗
OLIVE フィッシングパーツ
代表兼チーフデザイナー。カ
スタムハンドル「ウェーブ」
の生みの親。現在新たなクラ
ンク「ハイサイド」を開発中！

Theory1: クランクベイト攻略に必要な知識

エリア歴4年という短い期間の中で、3年目、4年目とエキスパートクラスに参戦している新辰朗さんは、なぜそんなに早く上達したのか。この連載では新さんが実践している仮説と検証を実践しながら、最速で上達するために必要なエリアの知識や練習方法を学んでいく。

Photo&Text=中村正和

最速で釣るための 仮説



↑当日の天候やボンドの様子はもちろん、前日からの気温差や一時的に太陽光を遮る雲の有無など、様々な要因と過去の経験を組み合わせ仮説を打ち立てる。

最速・最短で1尾を手にするために必要なのが、釣り場の状況を見てベストなルアーと釣り方のパターンを導き出すための仮説を立てることだ。今回の釣り場で新さんがどんな仮説を立てたのかを見ていこう。



↑新さんがチョイスしたルアーは、ミニスベック、ザンム 35MR、ディープスベック、ザンム 100、パーフル。トッププラグがあれば魚が縦の動き（クランクではストップ&ゴー）、横の動き（クランクでは巻き）のどちらにストロングなのかを見極めることもできる。

「ボンドを見ると、水面にしっかりと捕食している魚のライズが見られます。桜の時期なので風が吹いて花びらが舞い落ちると同時にバイトが出

てますね。他に綿毛のようなものも落ちてますので、今日は表層、それもド表層で間違いないでしょう。



まず1投目から投げ落としした段階でルアーを動かさずにバイトが出るかどうかを見て、落ちるものに反応するのかが確かめられます。落下物に反応がいいと仮定するならば、ミニスベックのようなシルエットが小さなもので、晴天ですらマット系カラーがベストだと思えますよ。

もちろん毎回のこの仮説が通じる訳ではない。季節や天候などによっても変わってくるので、その日のベストな状態を導き出す知識と経験を身につけて日々の釣りに臨もう。

検証のための知識①

季節や天候で狙うレンジが どう変わるのかを把握する！

仮説を裏付けるためには、知識と経験が必要とされる。新さんがどのような考えのもとに仮説を立てているのかを解説してもらおう。

「僕はレンジを『表層』『中層』『ボトム』『カケアガリ』の4つのキーワードで攻略していますが、狙うレンジは季節ごとに変ります」

新さんが狙う季節ごとの詳細なパターンは、左の表にまとめたのでそちらを参考にして欲しい。

50cm~1mのレンジはシーズンを通して魚のストック量が多く、クランクで狙いやすいレンジなので、表層付近の反応が悪いときはこのレンジに切り替えてください。

狙うレンジは季節だけでなく、天候にも左右されます。曇ったらド表層、晴れたら一段下と一日の中でも魚のレンジは移動しますから、気象条件も考慮しながら破壊力のあるレンジを探しましょう！

短い時間で釣りが上達するために、日頃から釣れるキーワードを意識することが重要なので、魚の動きを見逃さないようにしたい。

夏

水温がいちばん重要なキーワードになる季節です。水温が上がるととにかく釣りにくい時期ではありますが、魚は浮いていますので表層から狙っていくのがセオリーですね。

表層がダメなら、水温が低いボトム狙いに切り替えましょう。

中層は水温が安定していないのでレンジによって魚のバラツキが多く狙うのが難しいのですが、アクティブな魚が固まっているレンジをピンポイントで狙えば、グッと釣果が伸びますよ。

寒くなるとキーワードはボトムになりますので、レンジを下から上へ持ってくるイメージで狙います。その時、春の釣りとは真逆で今度はボトムを「フルボトム」「底から10cm」「底から30cm」に分けて、細かく探れるボトム系のルアーやスプーンを使う必要があります。

冬

春

水温が徐々に高くなってくると魚は上ってきます。桜の花びらや虫など落下物も増え、表層付近を意識している魚も多いから、レンジは上から狙っていきます。

この時期は表層で連続して釣れた後はいったん静かになることが多いのですが、虫のハッチが始まったり花びらが落ちたりと、何かのきっかけがあると魚が上るので再び表層で釣れるようになりますね。

表層がダメなときは50cm前後のレンジを狙いましょう。

適水温に近づくと、魚はどのレンジにも散らばり全域狙いや早い時期です。その中でも最も効率的に釣れるレンジを探ることが重要なので、釣れてるからといって同じレンジばかりを狙うのではなく、もっと爆発力のあるストロングなレンジを探してみるといいでしょう。

秋





検証のための知識②

カラーセレクトは 光量に応じて行う!

ルアーのカラーセレクトの目安として覚えておきたいのが光量だ。
「私の場合、釣りはブラックバスで覚えたので天気が良いときは地味な色、曇りのときは派手な色を使っています。曇りのときは逆に地味な色を使うのが基本となります。光量の強い晴れの日には、強い色から始めて徐々に色を落としていきます。最初は最も強い色であるフルペイントで光を通さないマット系のカラーから投げましょう。次に投げるのは中間色であるキラキラしながら

も透け感のあるカラーです。最後に最も弱い、光の透過が半分くらいの地味な色を入れていきます。曇りの日やローライトな状況では逆に地味な色から始めればいいですね。僕がプロデュースしたD L I V E カラーは、どれかの状況に必ずマッチする色を意識して作ったので、光量を基準に投げてみて下さい」

ハイライト



ローライト

↑新さんはカラーを上記の4つのグループに分け、光量に応じて使用している。この釣り方を実践するためにも、それぞれのグループの中から最低限でも2色ずつ、トーナメントへの参加が前提であれば全ての色を揃えておきたい。

例外的な
特殊カラーも
存在する!



↑誘いと喰わせ両方の要素を持ったバードリッジは、迷ったときの打開策として有効。
→ピンクはどの釣り場でも釣れる色なので必ず持っておきたい。夏場のタフコンや他の色で喰わないときには、ブルーやグローが効くことが多い。

検証のための知識③

レンジが同じなら アクションも同じ?

クランクにはSR (シャローランナー)、MR (ミディアムランナー)、DR (ディープランナー) といったように、潜行深度が違うタイプが存在するが、同じSRタイプのルアーだからといって、アクションまで同じとは限らない。

「例えばザンムの35MRと33DRはローアピルな泳ぎをする喰わせ系のクランクですが、フルスベックDRやDRFFはアピルが強いウオブル系のアクションをするので、高活性な魚を狙うときに使います。ザンムD Oは動きが弱く飛距離があるので、プレッシャーが掛かったときに沖の魚が釣れるルアーです。今上げたルアーは僕が試合でよく使うものですが、動きとレンジの違いを把握して、状況ごとに4〜5パターン間のバリエーションを確立しておけば、いざ試合になったときでもすぐその状況に対応できます。」



↑日中のタフな状態にも関わらず、ハイサイドにはガッツリとしたバイトが連発! 「まだサンプルなのでこのカラーしか無いんですけど、予想以上に釣れますね」。完全なトーナメント指向のクランクとして開発されているので、今までのクランクで足りなかったシーンを補完してくれそうだ。



↑タイプの違いだけでなくアクションの違いも把握しておくことで、いち早く状況に合ったルアーセレクトができるようになる。ひとつずつ使い込んで自分の武器にしていこう。

「実は今、D L I V Eでもクランクを作っているんです。名前はハイサイドといいます。通常のクランクよりフラットデザインにしているのが特徴ですね。飛距離が出ますし、アピルが強く低速でもかなりキビキビ動く競技指向のクランクです。まずは潜行深度1mのMRから発売しますが、ド表層から1mのレンジまで、ロッドの角度調整だけで瞬時にレンジを変えられるので、使い勝手がよく釣れると実感してもらえらると思いますよ!」

最速で釣るための 検証



果たして仮説の通りに最速で釣れたのか、検証結果を見てみよう。

新さんのフアーストキャストは仮説の通りミニスベックのグリーンタイガーを選択。ルアー着水後に放っておくと、予想通り止めたままのミニスベックにバイトが出て1投目からヒット！ しかもそこからさらにほっとけ&巻きアクションの組み合わせで5連続ヒットというストロングな状態へ突入！

「5回投げて5回ともバイトしましたから、釣れるパターンは見えました。では、今度は同じルアーで地味なカラーにしてみましようか」

次にセレクトしたのは、同じくミニスベックのマロンキ。

「マロンキは喰わせのカラーなんですけど、さっきと違って落ちた時点では喰いません。でも巻いてくれば喰いますね」

新さんが引いているのは水深約20cmのレンジ。その後も同じところを通してバイトが出るが、ショートバイトばかりでバレルことが多い。

「巻いてすぐバレルときは、フックを疑うのももちろんですが、色かレンジがちよっとズれていることが多いんです。あまり続くようなら色を

変えてみるというですね。今の場合は、色はグリーンタイガーで間違いないと思うので、ルアーをディーブフルスベックに替えてみます」

狙うレンジは同じだが、振りの大きなアクションをするディーブフルスベックへの反応はイマイチ。

「今の状況だと、あまり派手な動きはよくないみたいなので、ザンム35MRの柔らかい動きで少しレンジを落として狙ってみます」

レンジを50cm前後へ落とすと、再びバイトが連続！ 試しにカラーを喰わせ系の色へ落としてみると、こちらも喰わせ系の色は不発だった。

「今日は仮説通り、「シルエットの小さなルアー」「光を通さないマットカラー」「下層」がベストパターンのキーワードでした。予想と違ったのは、思った以上にカラーにセレクトティブだったことですね」

仮説を立てて検証する釣りをすることで、釣れた理由と釣れない理由がよくわかる。ただルアーを投げてなんとなく釣りをしているだけではわからないことなので、ぜひ実践してみてください。その経験の積み重ねが自分の武器となるのだ！



まさにベストパターンが当てはまったミニスベックのグリーンタイガーには、ニジマスだけでなくアマゴもヒット。いち早くベストパターンがつかめるようになれば、釣果倍増も夢じゃないぞ！

その季節にしかできない、 パターンを 徹底的に練習する！

季節ごとのベストパターンがわかると、いち早く1尾を獲ることができるようになります。僕の場合最初の1年間はクランクしか使いませんでしたので、クランクのシーズンパターンがよくわかりましたね。ミディアムレンジを引けるフローティングタイプのクランクを中心にしっかり練習してみてください！



↑時期によっては桜パターンなど独特な釣り方もある。これからの季節は虫と水温にも注目してみるとよい。



新さんのタックル
 【ZANMU35MRを中心とするクランク巻きの釣りメイン】
 レッドタキオン AGSモデル (プロト) + ウェーブWハンドル 70mm + ライン ヤマトヨエリアフロロ 1.5Lb
 【ZANMU35MR用】 レッドタキオン + ウェーブWハンドル 70mm + ライン ヤマトヨエリアフロロ 1.5Lb
 【ディーブフルスベック FFを中心とする、クランク、乗せ重視のタックル】 バッカー + ウェーブWハンドル 70mm + ライン ヤマトヨエリアフロロ 1.7Lb
 【ZANMU IDOなどの遠投、沖の表層狙い。又はディーブフルスベックの遠投】 レッドタキオン TypeR ARATA+ ウェーブWハンドル 80mm + ライン ヤマトヨエリアフロロ 2.0Lb
 【バブルなど表層系マイクロクランク用】 スーパーアンダーゼロ + ウェーブシングル MP7 + ライン ヤマトヨエリアフロロ 1.2Lb

今月の
ひと言



ARATA'S VOICE